

原子力委員会

委員長 中 曾 根 康 弘 殿

34. 10. 29

日本労働組合総評議会

議長 太 田 薫

申 入 書

英国コールダーホール型発電用原子炉について、近く安全審査専門部会での結論が出されようとしていますが、私たちは左記の理由によつて、英国炉の導入、設置に反対します。

1. 敷地・東海村について

(イ) 隣に米軍射爆場があり、誤投下事故が続出している（昭和27～33年6月に233件）ので、もしも英国炉に誤投下や墜落事故があつた場合「死の灰」は関東一円に広がる。

(ロ) 英国の敷地基準に合っていない。

2.5キロ以内に小学校があり、8キロ以内に人口1万人をこえる久慈町がある。しかもフアーマー論文では事故原因に地震をあげていないが、この地域は日本有数の地震帯である。

2. 英国炉の導入理由に疑問がある。

(イ) 将来に役立つものとは考えられない。

なぜなら中曾根氏自身が「長期計画を英国炉以外のものに重点を置くよう再検討する」といつており、英国自体でもこの型の炉は見捨てられつつある。

(ロ) 国産ののぞみも意慾もない

この炉は土木関係以外は、国産可能のもの（例えばタービン発電機黒鉛など）も一切輸入にあおいでおり、この型の炉がつずいて建設される予定もなく、国産化されていく望みはない。